

資料編

目 次

中区 外国人数基礎調査 概要 [令和元（2019）年度]	1
中区 区民意識調査 概要 [令和元（2019）年度]	11
中区 外国人意識調査 概要 [令和2（2020）年度]	17

中区 外国人数基礎調査 概要 [令和元（2019）年度]

区内に居住している外国人住民の実態を把握するため、平成 28 年度に実施した同調査の調査項目を基に経年変化を調べることを目的に実施。

【調査に使用した主なデータ】

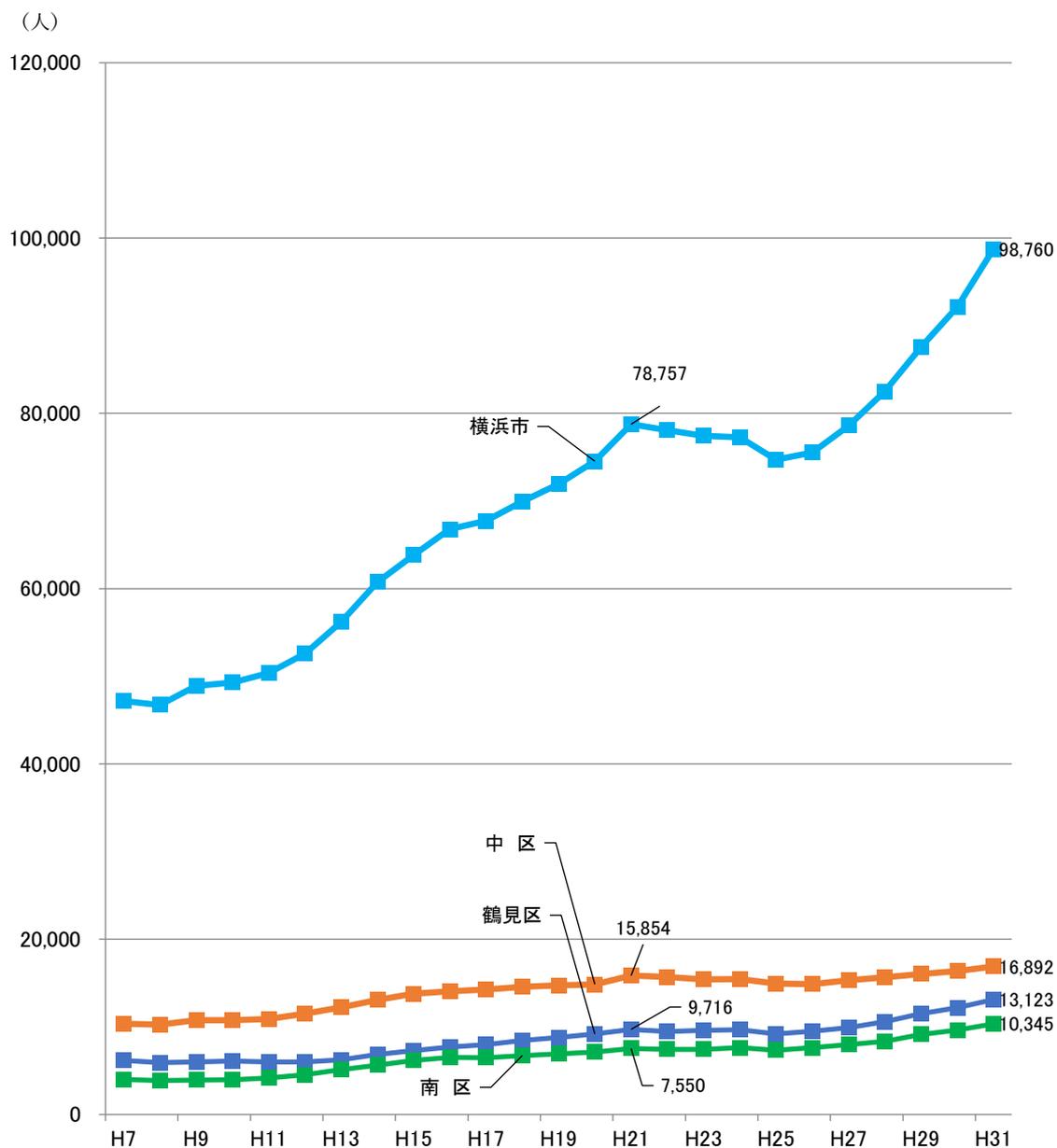
- ・住民基本台帳（平成 31 年 4 月現在）
- ・「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（総務省）
- ・「地域、国籍別外国人人口」（横浜市）

1 外国人数の動向

平成31年3月時点の中区の外国人数は16,892人で、過去10年間の外国人の動向を見ると、横浜市全体で2万人の増加に対し、中区は1,038人の増となり、緩やかな増加傾向を示しています。

全体人口に占める外国人の人口比率は11.2%（平成21年は10.8%）で、市内の他区に比べて外国人数及び比率がともに1位となっています。

図 市区別外国人数の動向（H7～31）（横浜市、中区、鶴見区、南区）

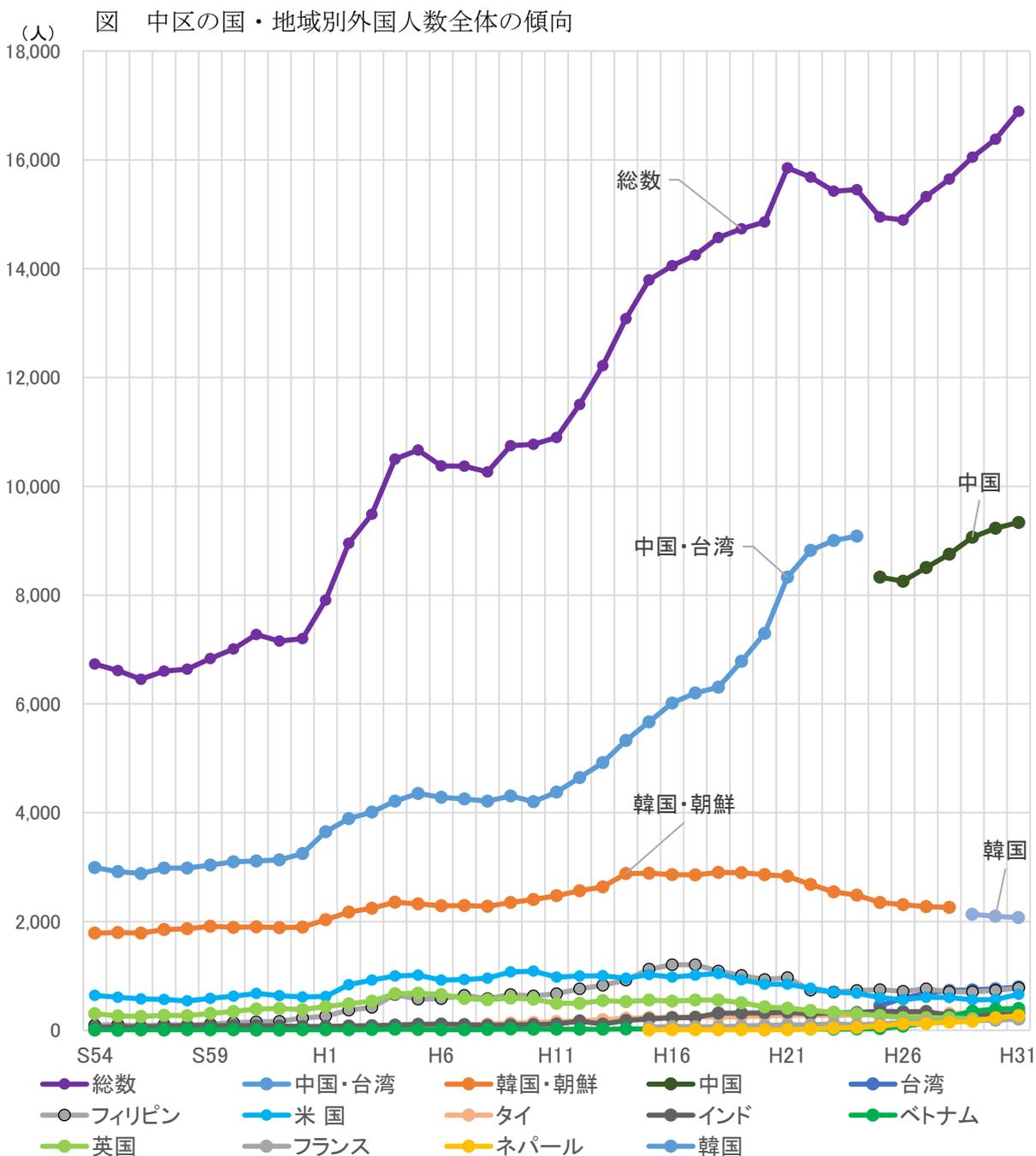


※横浜市統計書による。各年3月末時点

2 国・地域別外国人数の動向

中区に住む外国人の出身地は 93 の国・地域にも及び、多国籍化の傾向が強くなっています。国籍別では、中国が全体の 55% で最も多く、次いで韓国、台湾、フィリピン、ベトナムが上位となっています。

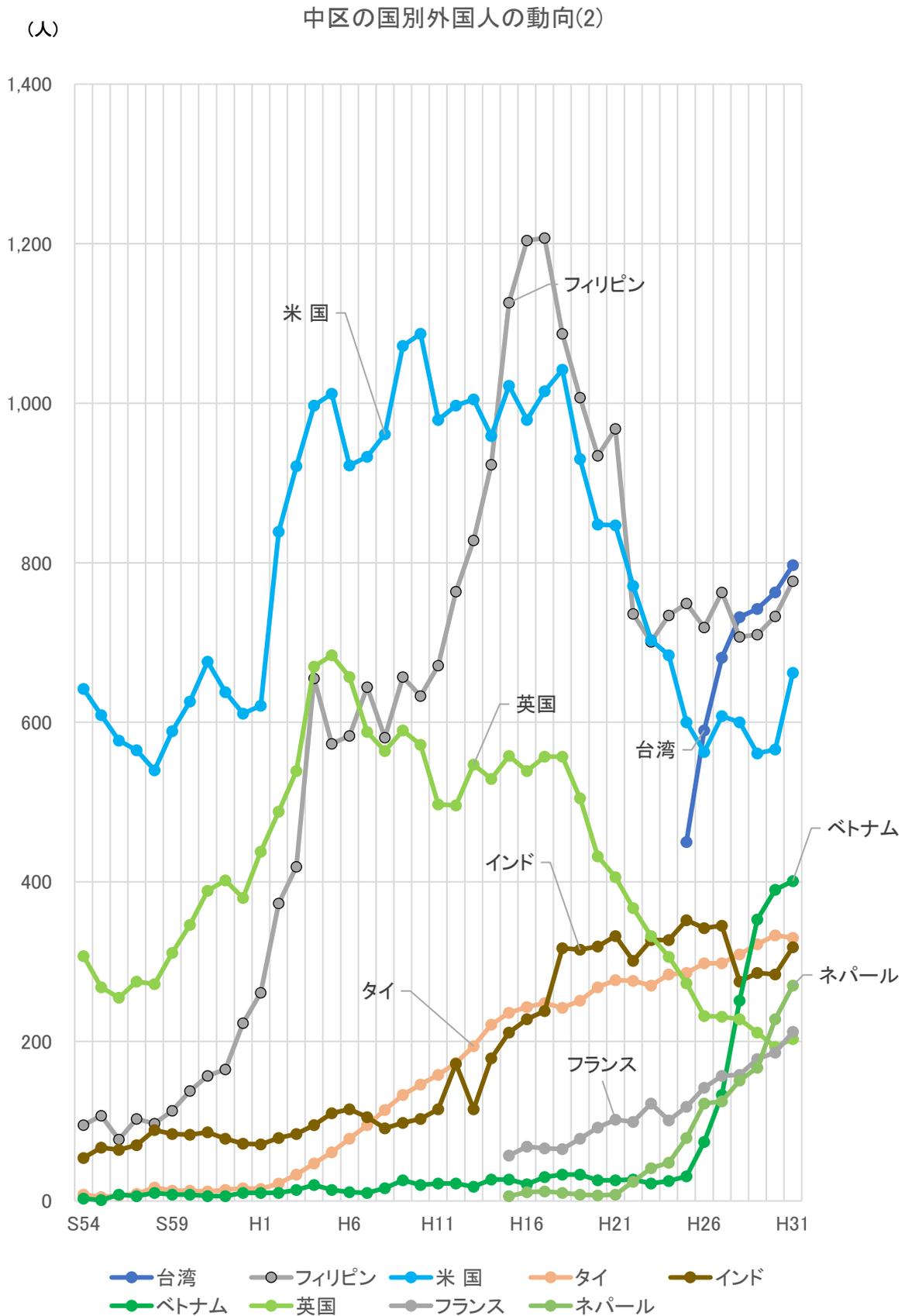
近年はベトナム、ネパール国籍の外国人が急速に増加している一方、中国国籍の占める割合がやや低下する傾向が見られるようになってきています。



※「人口のあゆみ」及び各年「横浜市統計書」による。各年3月末時点。

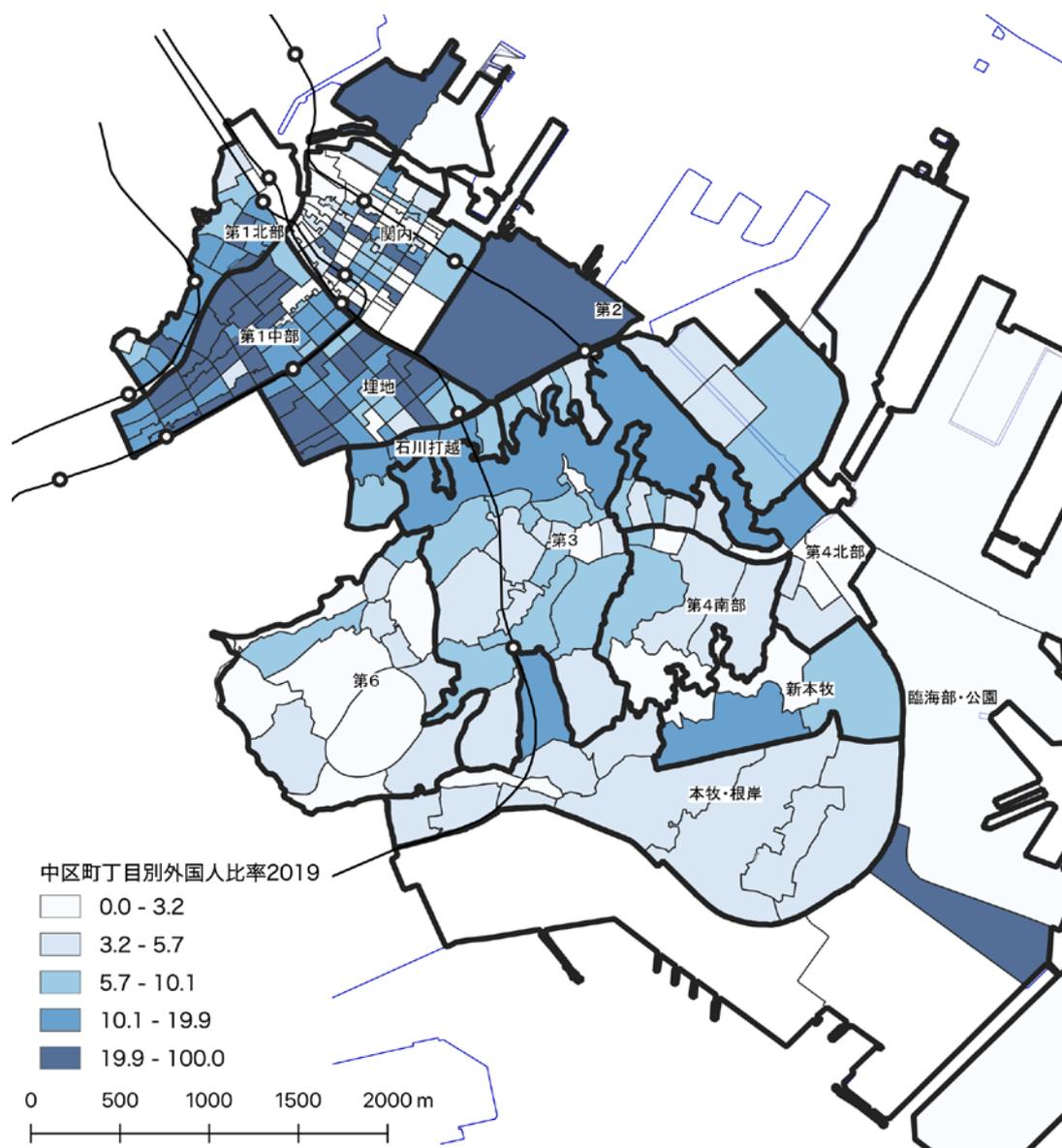
※平成25年以降中国と台湾は別に集計されている。平成29年以降は韓国と朝鮮が別に集計されている。

図 中区の国・地域別外国人人数 (2) 中国、韓国・朝鮮を除く



3 町丁目別の外国人比率（集住エリア）

横浜中華街を区域に含む山下町（第2地区）や、山手町（第3地区）等に多くの外国人が暮らしています。山下町（第2地区）や第1中部地区、埋地地区の一部では外国人比率が20%を超えています。

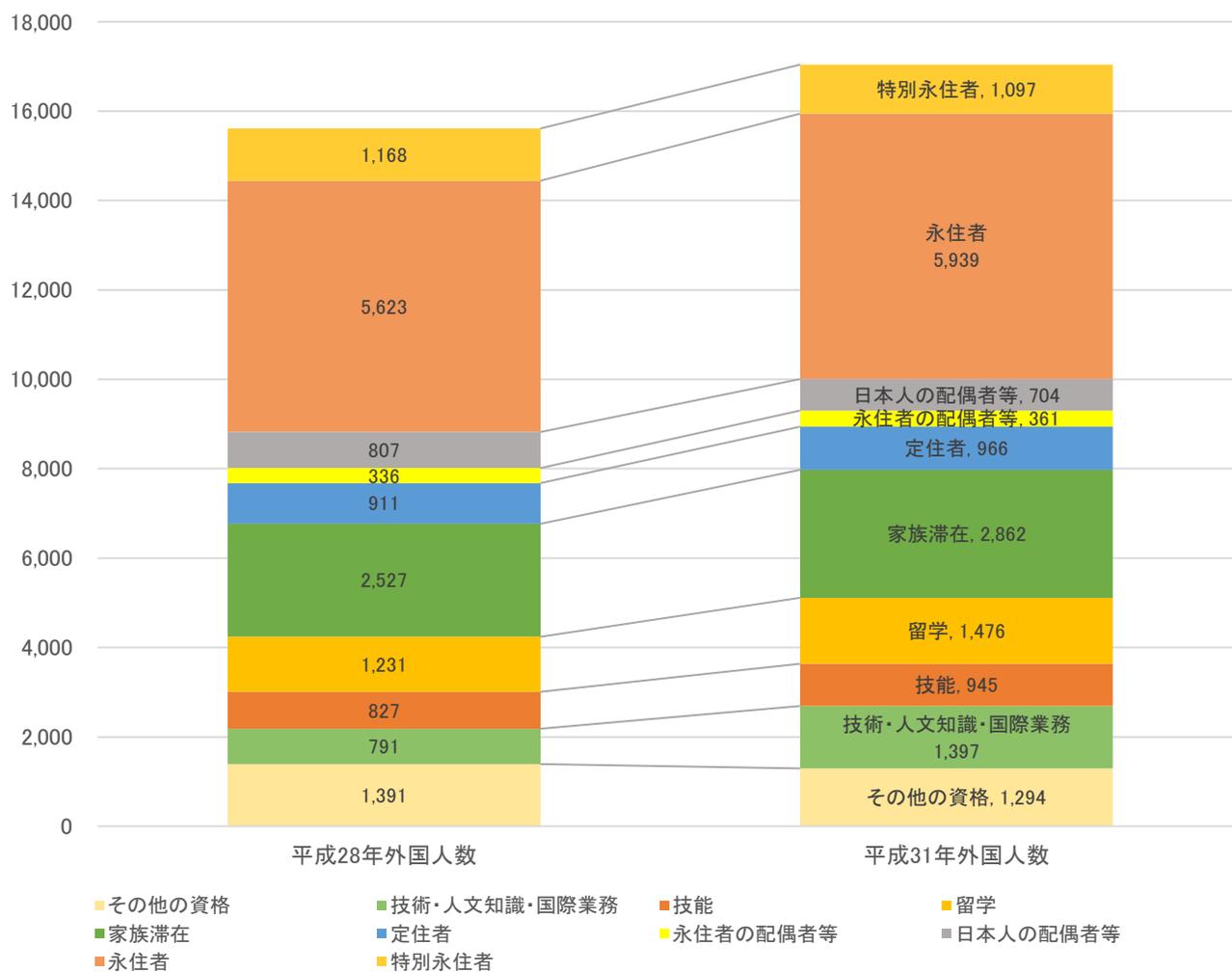


*住民基本台帳の独自集計結果による。平成31年4月現在

4 在留資格別外国人数の推移

在留資格のうち最も多いのは「永住者」で、中区に住む外国人のうち35%を占めています。次いで「家族滞在」、「留学」の順になっています。平成28年から平成31年の3年間で、外国人は1,429人増加しましたが、うち606人は「技術・人文知識・国際業務」で最も多くなっています。

(人)



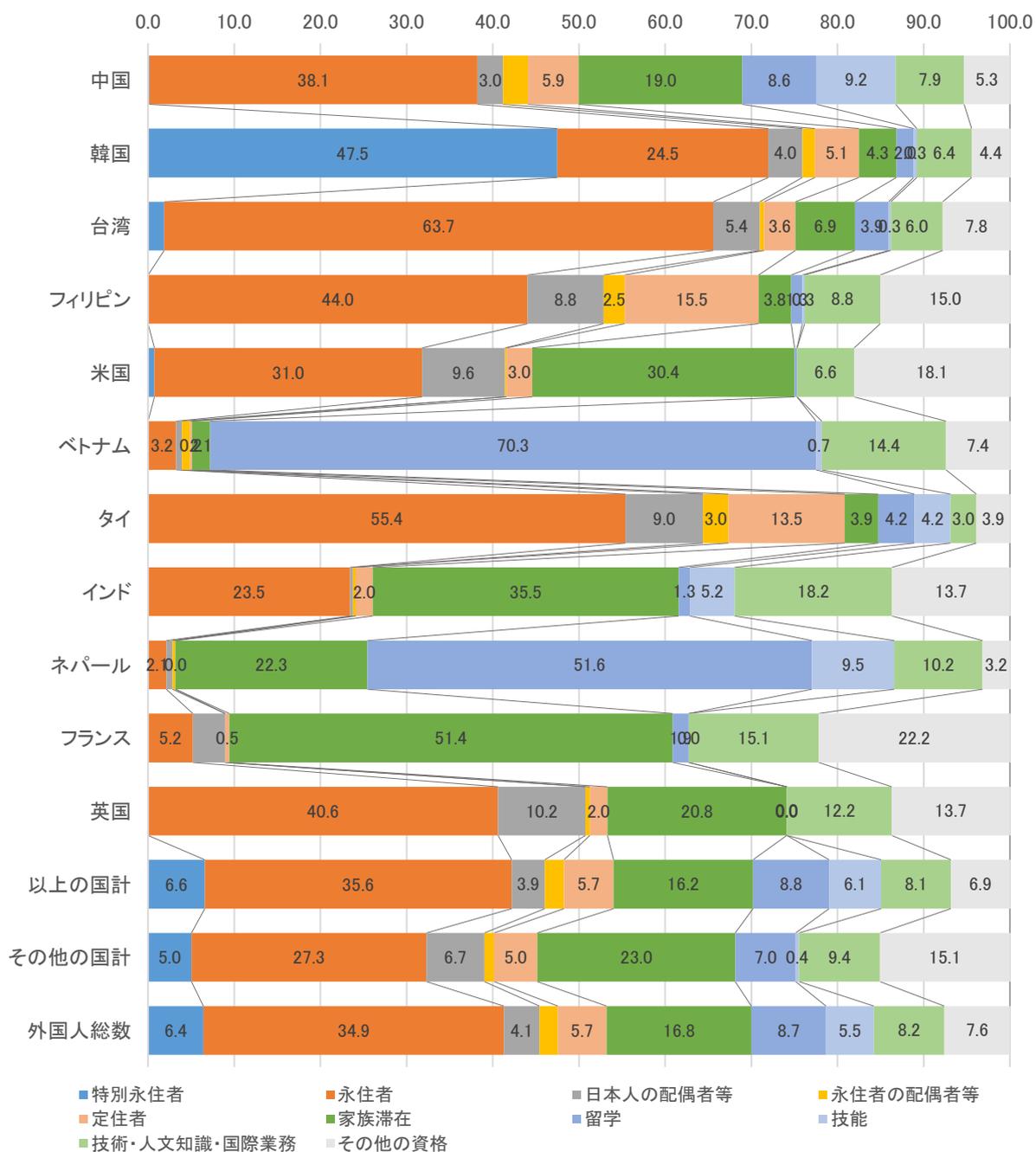
*住民基本台帳の独自集計結果による。平成31年4月現在

5 国・地域別の在留資格別外国人数

以下のような特徴が見られます。

- ・韓国は「特別永住者」が多く全体の47.5%を占めています。
- ・中国、台湾、タイ、フィリピンは「永住者」の比率が高くなっています。
- ・ベトナムやネパールは「留学」の比率が高くなっています。
- ・フランス、インド、米国は「家族滞在」が多くなっています。

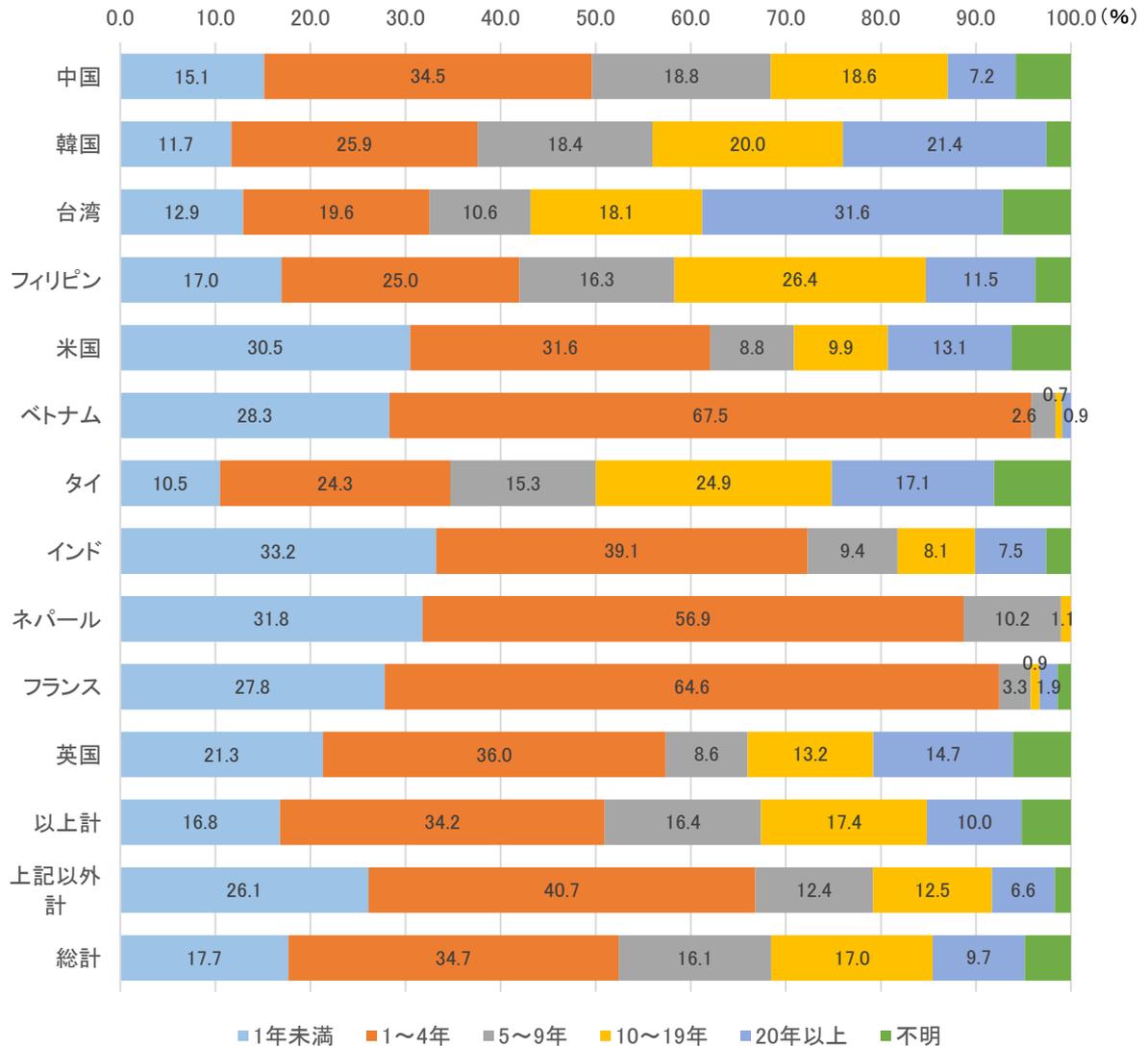
図 国・地域別外国人の在留資格別の構成（外国人数上位11か国）



*住民基本台帳の独自集計結果による。平成31年4月現在

6 滞在年数別外国人数の比率

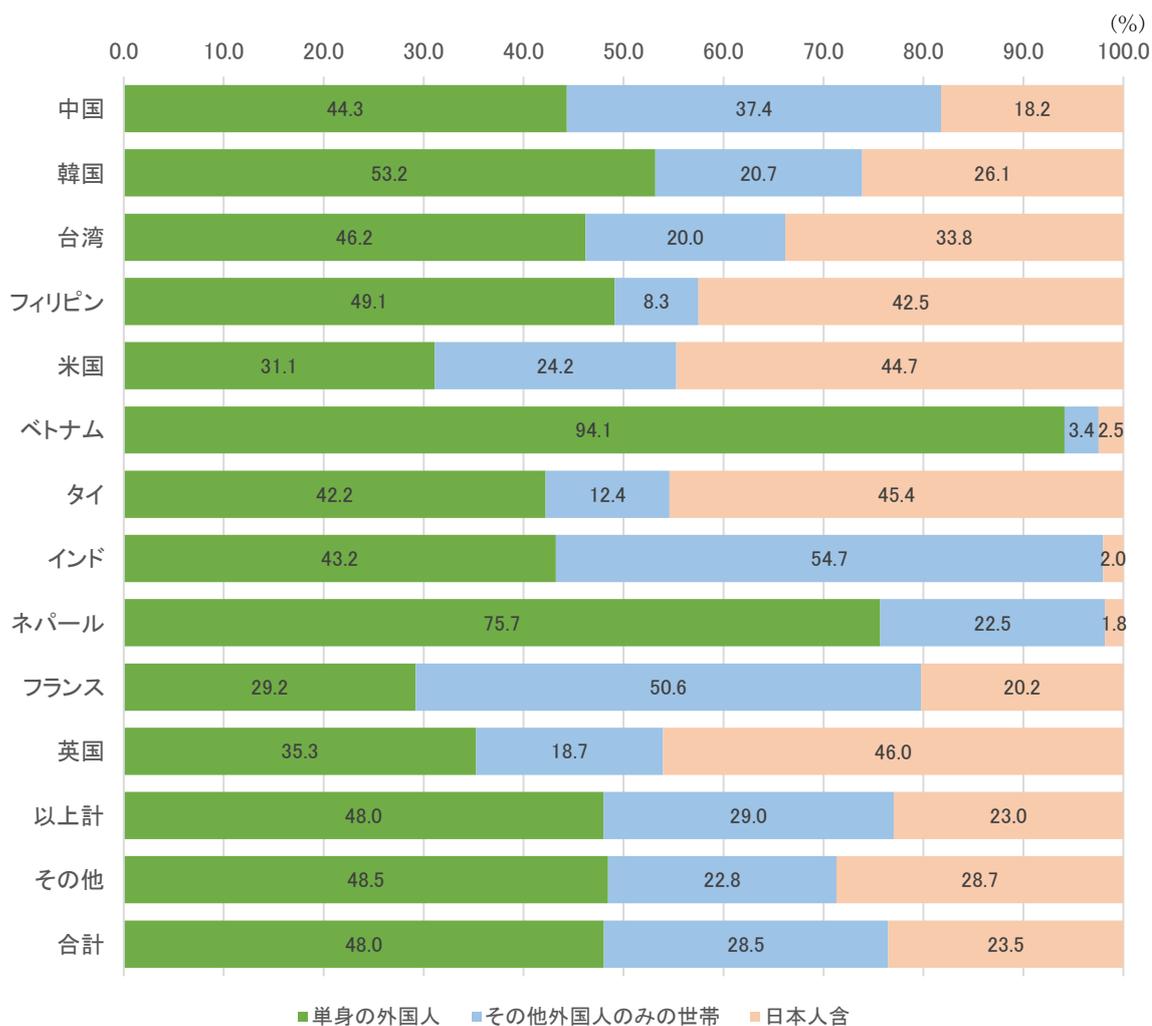
中区での平均滞在年数は7.71年で、滞在年数が4年以上の外国人が全体の48%を占めています。中国、韓国、台湾、フィリピン、タイは5年以上の中長期滞在者が多い一方で、ベトナム、ネパール、インド、フランスは滞在年数が4年以下の割合が多くなっています。このように国籍によって滞在期間の二極化がみられます。



*住民基本台帳の独自集計結果による。平成31年4月現在

7 世帯タイプ別の外国人世帯の状況

外国人のみの世帯と、外国人と日本人からなる世帯について、国・地域別に世帯数を集計しました。外国人世帯全体でみると、単身で暮らす世帯は48%、外国人のみによる世帯は（単身を含め）76.5%を占めています。国・地域別でみると、ベトナム、ネパールは単身世帯の比率が高く70%を超えています。一方、単身世帯の比率が40%以下の国は、米国、フランス、英国となっています。また、英国、米国、タイとフィリピンは、日本人を含む世帯が40%を超え、比較的に高い比率を占めています。



*住民基本台帳の独自集計結果による。平成31年4月現在

中区 区民意識調査 概要 [令和元 (2019) 年度]

中区では、区政に対する区民の評価、ニーズやまちづくりの課題を把握し、区政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、平成 20 年度から概ね 2～3 年ごとに区民意識調査を実施しています。

令和元年度は、「第 4 期中区地域福祉保健計画」及び次期「中区多文化共生推進アクションプラン」の策定に向け、地域福祉、多文化共生を重要調査項目とし、外国人を含む 18 歳以上の区内居住者 4,000 人を対象に実施しました。

【調査概要】

1 調査対象

中区内に居住する 18 歳以上の方

2 対象数

4,000 人 (内訳/日本国籍 3,500 人、外国籍 500 人)

3 抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

4 調査方法

郵送配布・郵送回収

(外国籍の方へは、やさしい日本語・英語・中国語簡体字 3 種類の調査票を送付)

5 調査項目 (計 48 問)

(1) 属性質問 (11 問)

(2) 中区の居住意向、中区の魅力について (2 問)

(3) 中区の行政サービスについて (1 問)

(4) 「多文化共生」について (10 問)

(5) 「地域福祉」について (11 問)

(6) 「自治会町内会」「ごみ・資源回収」について (3 問)

(7) 「防災」について (7 問)

(8) 「行政情報」について (2 問)

(9) 自由意見 (1 問)

6 調査期間

令和元年 7 月 18 日 (木) ～8 月 9 日 (金)

7 回収結果

(1) 有効回収数 1,325 件 (内訳/日本国籍 1,242 件 外国籍 83 件)

(2) 有効回収率 33.1%【前回(27 年度)調査実績 37.7%】

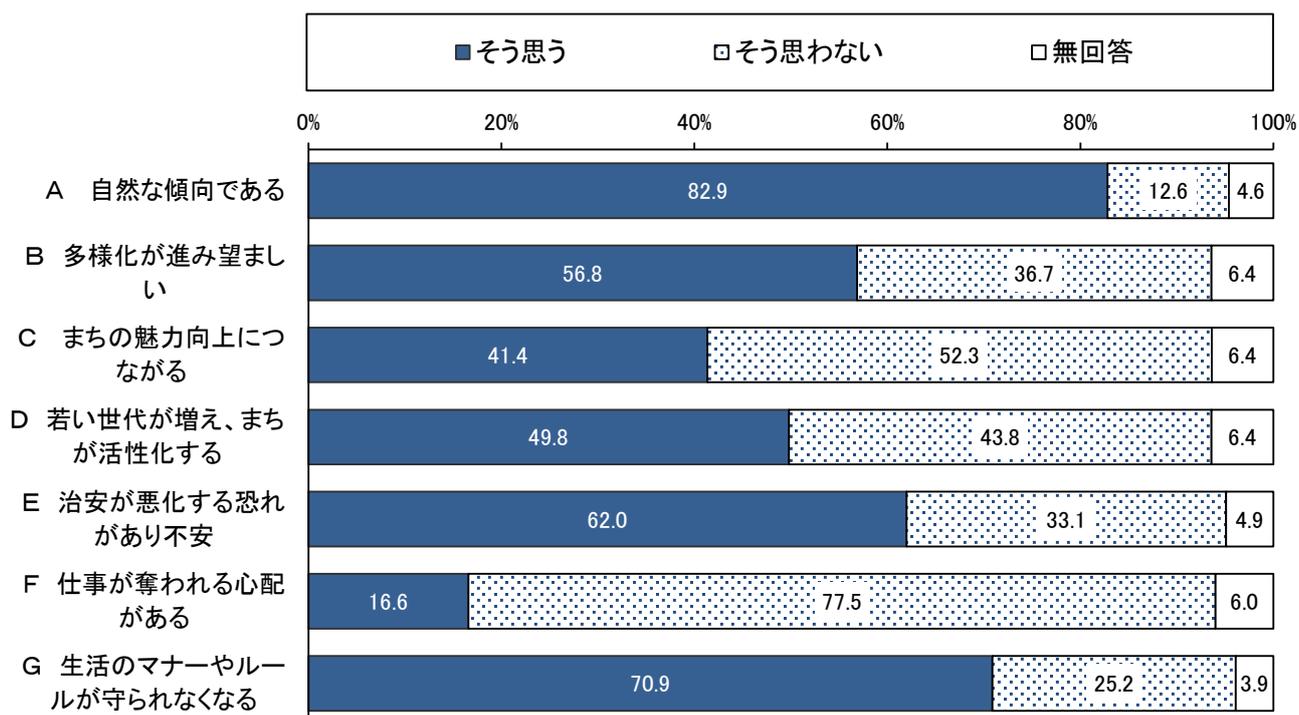
■ 多文化共生

外国人増加に関する意見について、「自然な傾向である」とする人が8割を超える一方で、不安の声も混在

外国人増加に関する意見について、日本人に尋ねたところ、「自然な傾向である」とする人は8割を超えています。年代別でみると、18～29歳の若い年代で「自然な傾向である」とする人が93.8%で最も高く、「まちの魅力向上につながる」「若い世代が増え、まちが活性化する」に関する意見についても、概ね若い年代の人が「そう思う」とする割合が高い傾向となっています。

一方、「生活のマナーやルールが守れなくなる」「治安が悪化する恐れがあり不安」と感じている意見も多数見られました。

問 16 外国人増加に関する意見（日本人版調査）

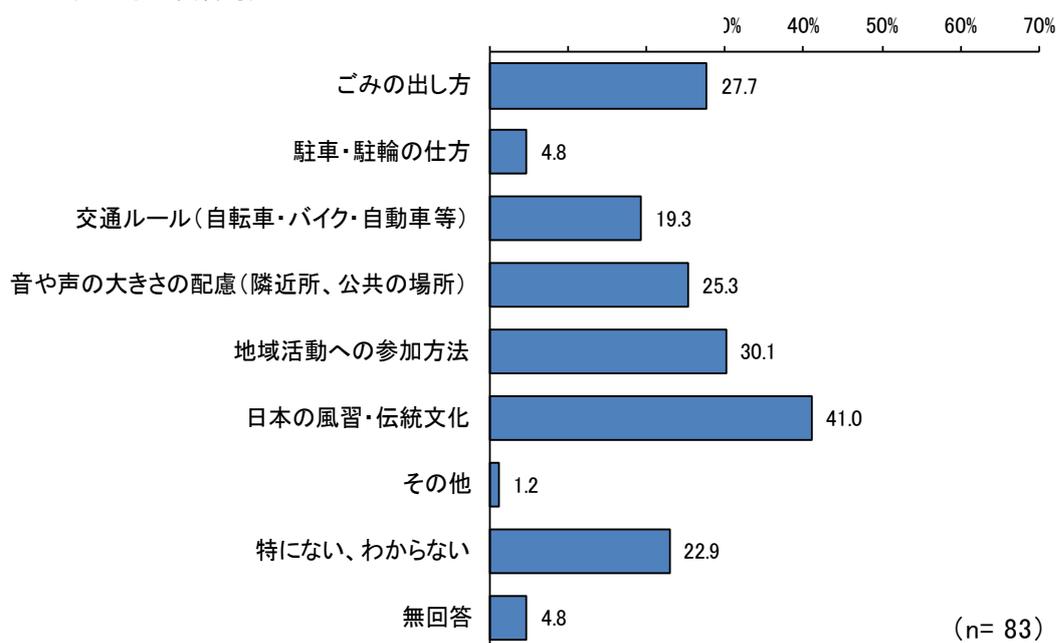


外国人が知りたいこと・・・「日本の風習・伝統文化」、「地域活動への参加方法」
日本人が外国人に知ってほしいこと・・・「ごみの出し方」、「音や声の大きさの配慮」

「日本のルール・習慣で知りたいこと」を外国人に尋ねたところ、「日本の風習・伝統文化」が約4割で最も高く、次いで「地域活動への参加方法」が約3割となっています。一方、「外国人に知ってほしいこと」を日本人に尋ねたところ、「ごみの出し方」が約6割で最も高く、次いで「音や声の大きさの配慮（隣近所、公共の場所）」が約5割となっています。

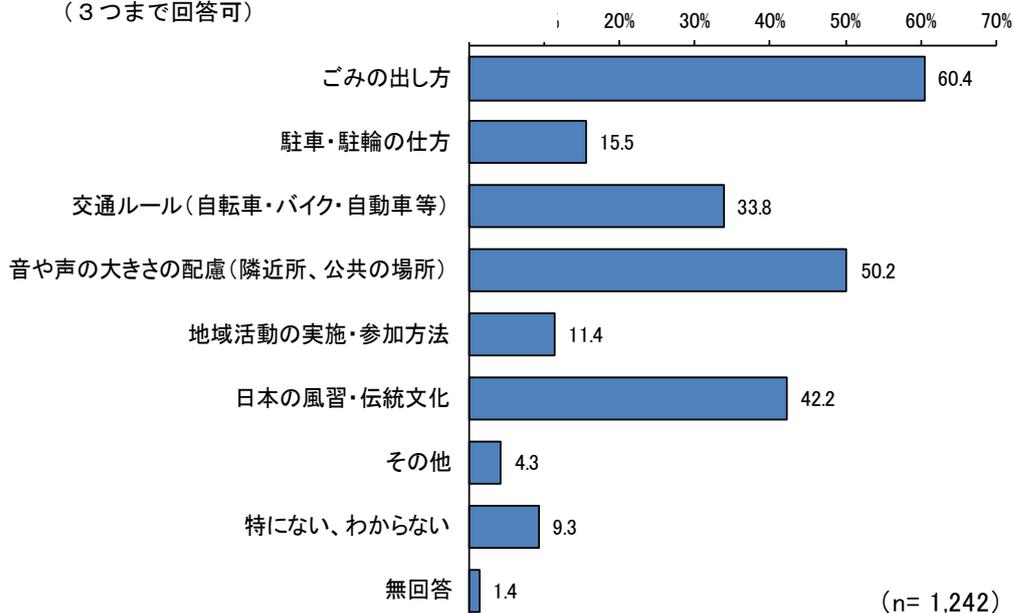
問 20 日本のルール・習慣について知りたいこと（外国人版調査）

（3つまで回答可）



問 20 外国人に知ってほしいこと（日本人版調査）

（3つまで回答可）



外国人／日本人との生活で戸惑った経験について、「特にない」が最多に
一方、外国人との「付き合いがない」日本人が4割超、外国人とのつながりの希薄さが
うかがえる

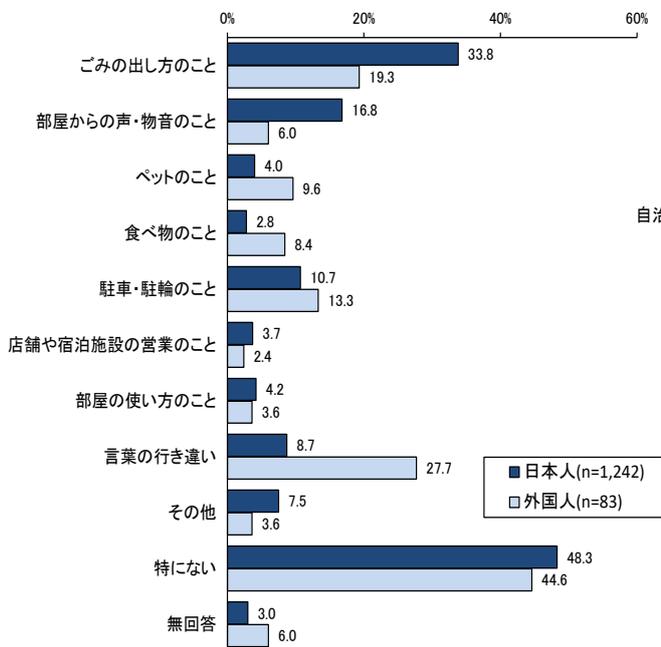
外国人／日本人との生活で戸惑った経験について、日本人／外国人に尋ねたところ、日本人・外国人ともに、「特にない」の割合が最も高くなっています。

戸惑った経験の内容としては、日本人の回答では「ごみの出し方のこと」が3割強、「部屋からの声・物音のこと」が1割台後半、「駐車・駐輪のこと」が約1割などとなっています。外国人の回答では、「言葉の行き違い」が2割台後半、「ごみの出し方のこと」が2割弱、「駐車・駐輪のこと」が1割台前半などとなっています。

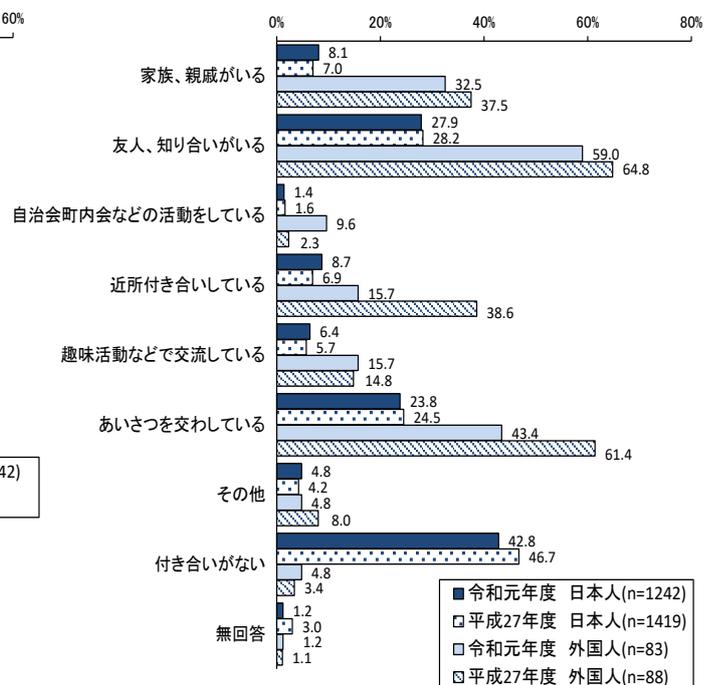
日本人は外国人と、外国人は日本人と、それぞれどのような交流があるか尋ねたところ、日本人の調査結果では、「付き合いがない」の割合が最も高く、4割を超えています。

外国人の調査結果では、「友人、知り合いがいる」の割合が最も高く、次いで「あいさつを交わしている」「家族、親戚がいる」の順となっています。平成27年度に比べ、「あいさつを交わしている」「近所付き合いしている」の割合が大きく下がっています。

問 19 外国人／日本人との生活の中区で戸惑った経験
(複数回答可)



問 17 外国人／日本人とどのような交流がありますか
(複数回答可)

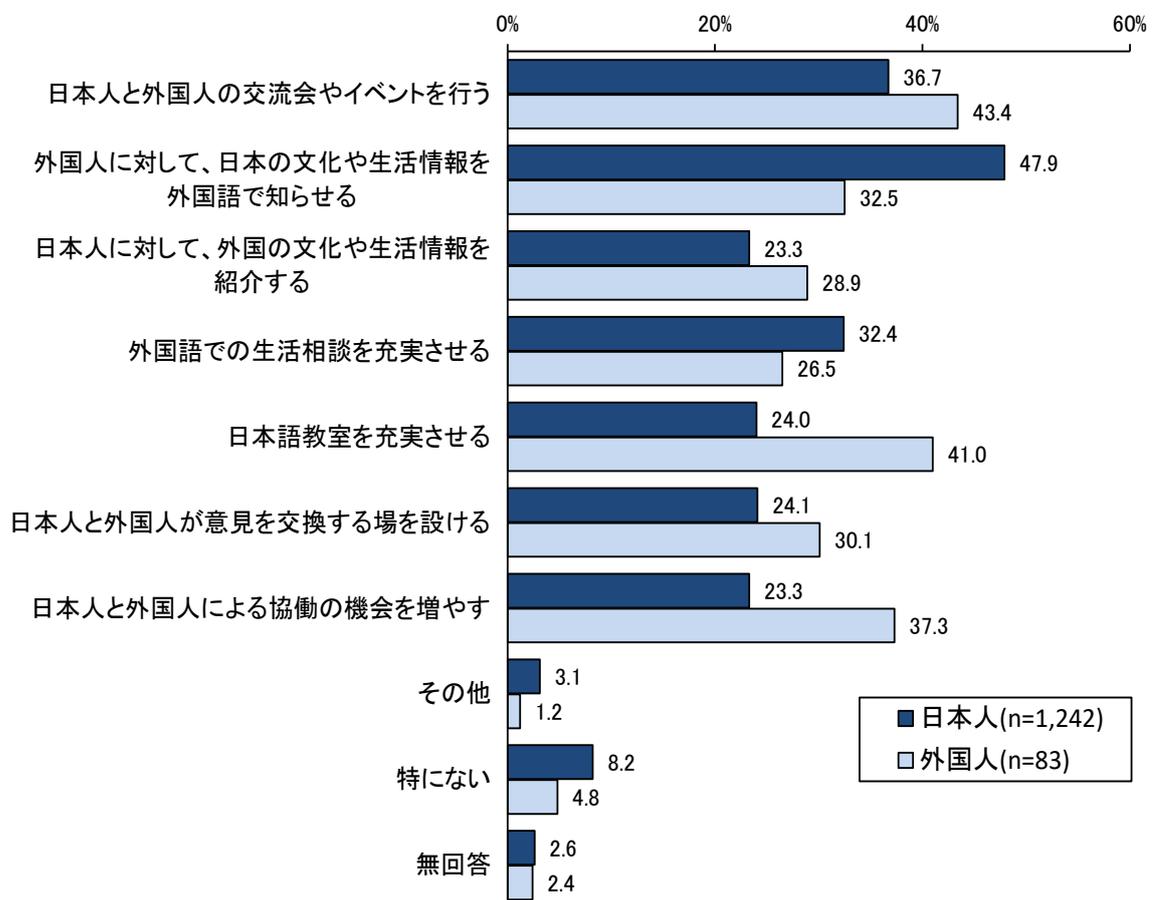


「多文化共生のまちづくり」推進のため区が力を入れるべきことについて、外国人と日本人でニーズの違い

日本人の調査結果では、「外国人に対し、日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が5割近くで最も高く、次いで「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」、「外国語での生活相談を充実させる」が3割台で続いています。

外国人の調査結果では、「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」が最も高く、次いで「日本語教室を充実させる」、「日本人と外国人による協働の機会を増やす」の順となっています。

問 23 「多文化共生のまちづくり」推進のため区が力を入れるべきこと（3つまで回答可）



中区 外国人意識調査 概要 [令和2(2020)年度]

中区在住、在勤、在学の外国人や、外国にルーツを持つ方を中心に生活実態、意識、市民サービスに対する満足度・要望等を把握するため、令和2年度に外国人意識調査を実施しています。

【実施概要】

1 調査方法

個人インタビューによる定性調査

2 調査項目

共通項目	選択項目
<ul style="list-style-type: none">・基本的な属性と日本語の習熟度・来日、在住の経緯と現在の世帯構成・情報の入手先・相談と日常のつきあい・行政サービスへの満足度、市・国への要望・外国人が暮らしやすい社会にするために必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・住居、防災・医療・介護などの福祉保健について・子育て・教育・就労・地域参加・社会参加の状況

3 調査対象

元年度実施の外国人数基礎調査の結果に基づき、在留資格や国籍別の特徴から、区内在住の外国人を次の4タイプに分類している。調査対象の選定にあたっては4タイプを中心に対象者を選定。

・永住者が多い国	中国、台湾、韓国
・日本人配偶者として来日	タイ、フィリピン
・留学生等として来日	ベトナム、ネパール
・海外からの赴任で来日	欧米、インド

⇒「中国・台湾」9名、「アジア(7か国)」11名、「欧米その他(4か国)」4名の合計24名を選定し、インタビュー調査を実施。

※個人情報保護の観点から本調査では「中国・台湾」「欧米その他」「アジア」に分け整理

4 世帯×世代別分析

インタビュー結果を「世帯」、「世代」、「ライフステージ」に着目し、次の5つに分類し、主な来日経緯、滞在中の主な出来事・経験・課題、将来の構想の順に各質問項目で結果を整理し、各類型のライフヒストリーをまとめた。また、各類型のインタビュー対象者がつながっている人や組織といった社会資源を整理したエコマップを作製した。

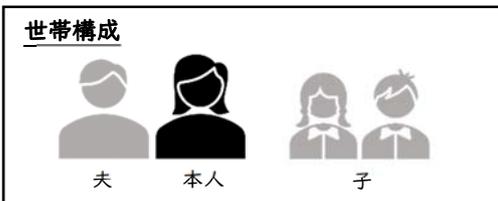
・子どもがいる世帯(母)	・子どもがいる世帯(父)	
・子どもがいる世帯(子:外国につながる若者)	・夫婦世帯	・単身世帯

【凡例】各類型で見られた社会資源とのつながりの傾向を以下の線で表す

- ・全般的につながりはあまり見られない
- ・つながりは見られるが限定的/人による —————
- ・つながりが比較的しっかりとしている/つながりがある人が大半 —————

子どもがいる世帯(母)

- **年代:** 20~40代
- **居住地:** 伊勢佐木町、根岸旭台、野毛町、山手町、大里町、山下町ほか
- **住戸形態:** 一軒家、マンション
- **日本語習熟度:** 留学や技能実習など過去に在住経験があるほど習熟度・学習意欲が高くなる



来日の経緯	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本人の夫と結婚して来日 ■ 夫の転勤や転職に付き添い来日 ■ 子どもに日本で勉強させ、日本で生活したく学齢期に来日 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 留学先が日本で結婚してそのまま住むことになった ■ 技能実習生として来日した際のつながりで日本人と結婚して来日
--------------	--	--

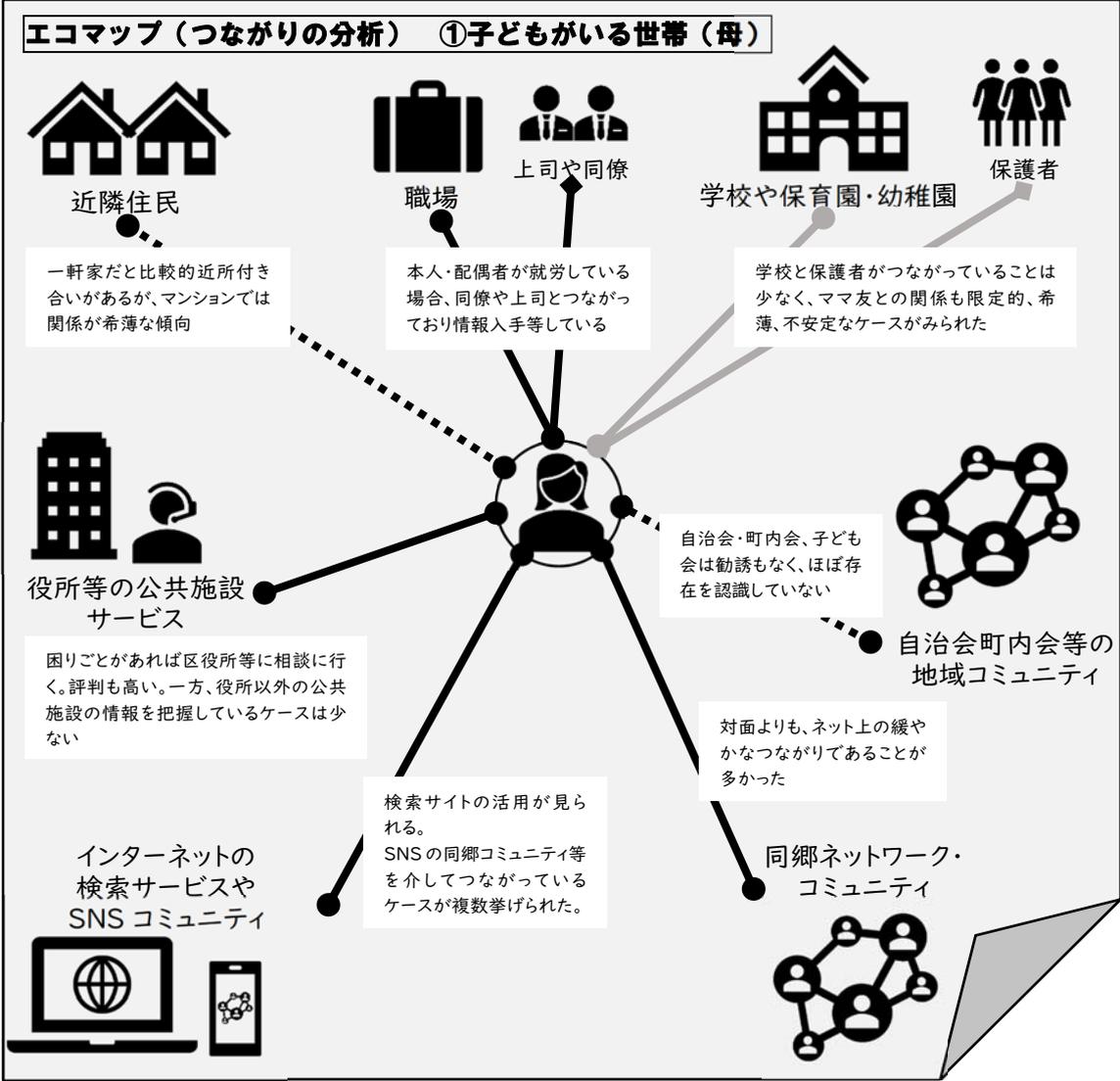
滞在中の経験など	子育て・教育		
	<p>【妊娠出産～卒園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本での出産は不安だったが、病院に通訳がいて、安心できた ■ 幼稚園は母親のやることが多い 	<p>【就学～中学卒業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の公立学校の環境・支援体制は良く、入学前に日本語支援拠点施設「ひまわり」に行けたのが良かった 	<p>【高校入学～社会人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の大学まで通わせるのは経済的負担が大きい
	<p>全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもの言語の選択としてバイリンガルにしたいが、幼い頃から日本の保育園や幼稚園、学校に通う場合は日本語優位になり、外国語でコミュニケーションを取る家族との関係性に課題がある ■ 外国人学校やインターナショナルスクールに通わせることは、子どもの将来(大学や就職)を考えると、適さない ■ 子育てや教育施設では、周囲の日本人保護者との関係性に課題を感じることもある ■ 地域の子どもに関する行事、園や学校の行事には言語の壁があると感じて参加しづらい 		

就労	<ul style="list-style-type: none"> ■ 職場では、年代もバラバラだが、世間話や、中学入学など子育てでの相談などもする関係となれた ■ 子の学費等、経済的負担が大きく、そのために仕事をしており忙しいため、子どもと話す時間がない ■ 夫の転勤で来日したが、子育てに時間をかけたいので仕事は出来ない
-----------	--

住居	防災	医療介護
<ul style="list-style-type: none"> ■ 同郷出身の知人の建物で、母国の人が多く住み、安心 ■ 子育てにはマンションの方が安全だし、震災の経験を踏まえ歩いて帰れるところにした ■ マンションの管理組合(理事会役員)をやっていた 	<ul style="list-style-type: none"> ■ マンションの防災委員として、火事や地震の研修を受けた ■ 東日本大震災では夫の会社による支援があった ■ ポストに防災マップやどこに電話するかなどが書かれているものが入っていた 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 病気になった時は日本語が話せる娘が通訳、付き添いをしてくれる ■ 一部の病院では外国語表示があった ■ 英語ができるドクターと英語でやり取りした ■ 言葉の壁で病院に行くのが怖く4年半くらい病院に行っていない

地域・社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常の活動圏 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 近隣の商店街、スーパー、母国の食材店などで頻りに買い物をするが、店員が同郷出身者だと買い物便利だった ➢ 教会などの宗教関係の施設に頻りに通っている ➢ 美術館、スポーツセンター、公園などの公共施設を利用しているが、一部の公共施設は情報がなく、活用できていない ■ 自治会町内会・管理組合・防災訓練・地域のボランティア活動等 <ul style="list-style-type: none"> ➢ マンションの日本人ママ友から幼稚園の情報をもらったり、管理組合・PTA などと一緒に活動したりするなど、積極的に参加している ➢ 学校のPTAや地域の子ども会については聞いたことがあるが、大変そうで参加できていない ■ 近所付き合い <ul style="list-style-type: none"> ➢ 一軒家に住んでいるが、近所の方とコーヒーモーニング・お茶会等を通して意見交換などを行い仲良くしている ➢ マンションでは普段挨拶程度だが、ほかのコミュニティを通じてマンション内の住人とつながった
----------------	---

将来の構想	<ul style="list-style-type: none"> ■ 永住権を取得し、家を買ったので、ずっと日本に住む ■ 日本語に関係なく働けるなら、サービス業や、ボランティア、保育園などで働きたい ■ 外国につながる子どもを支援して、安心して勉強できるような環境を作りたい ■ 母国に戻って、外国人に日本の文化を教えてあげたい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 家族を呼び寄せたので長く日本に住みたいが、子どもは日本で就職してくれることを望んでいる ■ 自分の料理店を持ちたいが、今は子どものために働く ■ 子どもの将来は、子ども自身が何になりたいかを大切にしたい ■ 将来どこで暮らすかは、夫の仕事の転勤次第
--------------	---	---



【子どもがいる世帯の外国人女性（母）の日本での生活に係る意識】

- ・総体的に、日本語の理解や話せるかが、様々な場面での関係性の構築に大きく左右していた。
- ・どの方も日本語学習意欲や就労意欲が高かった。また、自身の子に対し、日本語に触れる・学ぶ機会を提供するよう努めているとの声もあった。
- ・子育てに関して、日本の幼稚園、学校は母親の役割負担が多いと感じている声も多かった。
- ・自治会町内会、PTA 活動への参加に関して、言葉の壁もあり負担と感じている声もあった。一方で、勇気を出して、または近所の方からの誘いで自治会町内会、PTA 等に参加し、世界が広がったと話す方もいた。
- ・一定程度子どもが成長した家庭では、自身も日本語を学んだり、ボランティア活動やサークル活動をしたりと地域や学校、またそこで人との関わりを持つケースもあった。ただし、交流の中で、文化やコミュニケーション方法の違いから苦勞したとの声もあった。
- ・国籍に限らず外国出身の母親同士で情報共有をしているケースも多い。

子どもがいる世帯(父)

- **年代:** 30~40代
- **居住地:** 扇町、山田町、打越、伊勢佐木町
- **住戸形態:** 一軒家、マンション
- **日本語習熟度:** 仕事の内容により日本語力に差があり、また、話す機会の有無によって日本語の学習意欲にも差がある

世帯構成



来日の経緯

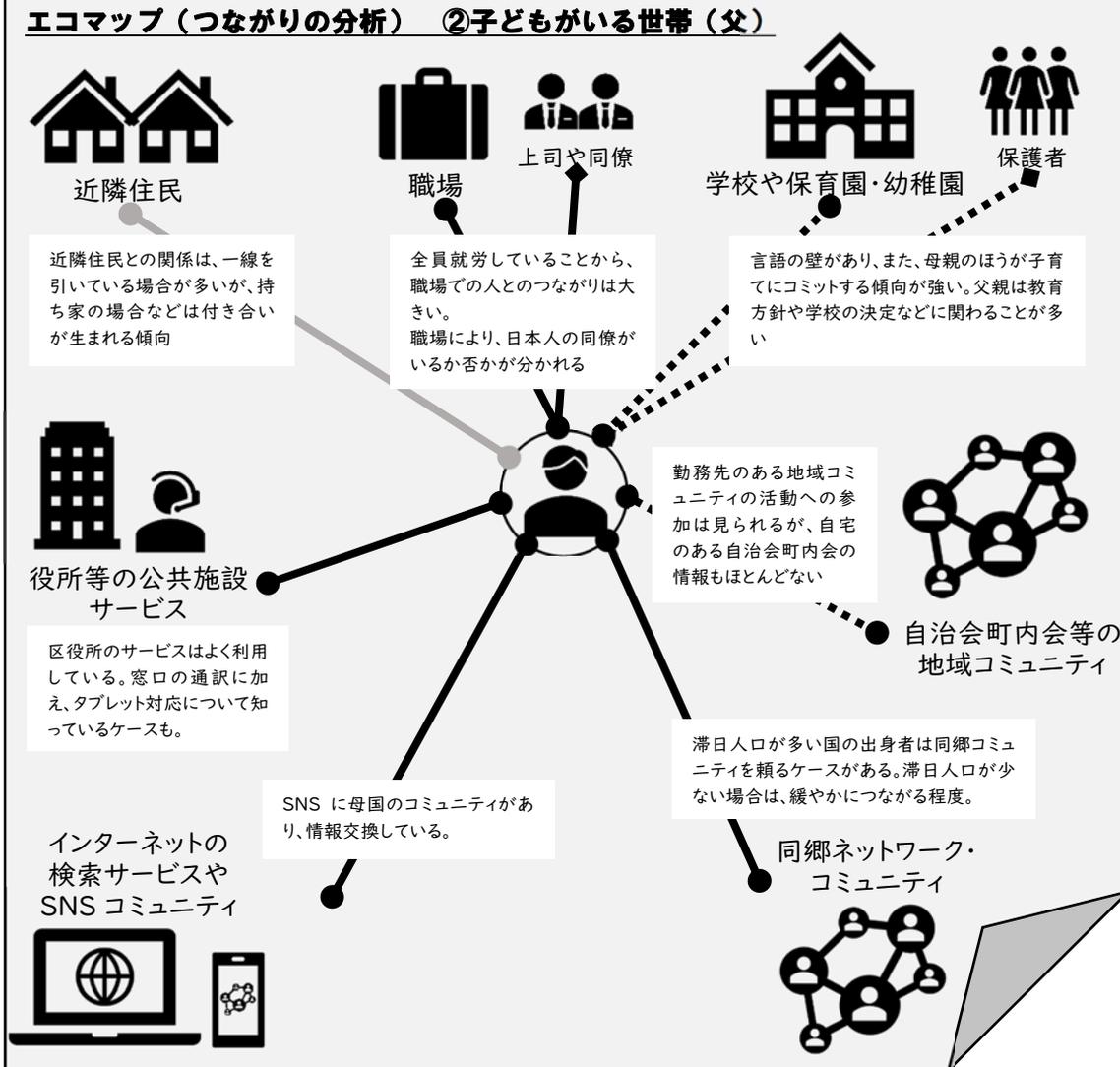
- 日本で働くために技能ビザで来日
- コックとして日本で仕事をするために来日
- プロジェクトのエンジニアとして仕事をするために来日
- 会社の転勤で来日

滞在中の経験など

子育て・教育			
時期別	【妊娠出産～卒園】 ■ 妻が保育園を探している。見つかったら仕事をしたいようだ	【就学～中学卒業】 ■ 面談では通訳をつけてもらった ■ 英語ができる先生がいて、コロナの際に電話で説明してくれた	【高校入学～社会人】 ■ 子どもには日本で教育を受けて進学してもらいたい
全般	■ 子どもが受験でラウンジの学習支援教室に通っており、教育相談にも乗ってもらっている ■ 学校のお便りなどはインターネットの翻訳等で中身を理解して子どもに伝えている ■ ピアノ、空手、体操、スイミングなどの習い事をしている ■ 子どもを呼び寄せるまで数年会えなかったため、しばらく互いに疎遠な感じだったが、来日2年ほど経ち家族らしくなった ■ 言葉とカリキュラムの問題から、日本の公立校や外国人学校に入れるつもりはなかった ■ 地域の子どもに関する行事、園や学校の行事には言語の壁があると感じられ参加しづらい ■ 子育て支援拠点があることは知っているが、行くには至っていない		
就労			
■ 労働基準監督署に行った友人によると、通訳もあり、丁寧に対応してくれたようだ			
住居	防災	医療介護	
■ 駅や学校からの距離を考えて、一軒家を購入 ■ 中区区内で複数回引越した ■ 自分の家を持ちたいが、技能ビザだとローンを組むのに条件が厳しい	■ 来日後、災害に対する不安があったが、今は慣れた ■ 子どもが学校で習った身の守り方、災害について教えてくれる	■ 医師も看護師も英語ができる診療所へ行った ■ 受診についての不安があり、子どもが夜中に熱を出しても救急車を呼べない。日本語が話せる友人に付き添いを頼むのも、気が引ける	
地域・社会参加			
■ 日常の活動圏 > 近隣のスーパーによく行き、公園も良く利用している ■ 自治会町内会・管理組合(マンションの理事会)・防災訓練・地域のボランティア活動等 > 仕事仲間が住んでいる町内会の花植えに参加した > 勤務先の料理店は商店街の組合に入っている > 自治会町内会や防災訓練には一度も参加したことがなく、参加方法について情報がない > 日本語ができないので地域での交流は難しい ■ 近所付き合い > 両隣の日本人と付き合いをしている > 一軒家を購入し住んでいるが、近所付き合いは上手くいっている > アパートでは近所の付き合いがない			

将来の構想

- 日本を故郷だと思っていて、家族を呼び寄せたので長く日本に住みたい。将来的には自分の店を持ちたい
- 今後もできる限り日本に住みたい。現在のプロジェクトが終わったら、別の仕事を探し日本で暮らしたい
- 家族が日本のことが好きなので、長く住みたいと思う
- 来日当初は長くなるつもりはなかったが、今はずっと日本にいたい。だが、コロナへの対策が不十分だと感じている。妻と子どもを母国に帰し、一人で頑張ろうとも思っている。将来は自分の店を持ちたい



【子どもがいる世帯の外国人男性（父）の日本での生活に係る意識】

- ・子育て世代の男性は、自分の意志で日本に来る場合が多くみられた。
- ・子どもたちを呼び寄せた場合、言葉の壁などで子どもが苦勞した様子などを見て、子どもに悪いことをしたと感じているケースもあった。
- ・勤務が忙しく日本語教室へ通えなかったり、同僚に同郷出身者が多く、日本語の学習・使用の機会が少ないとの声も聞かれた。
- ・仕事場での人間関係が強く、そこからさまざまな情報を得ていた。
- ・子育てに関しては、学校や教育方針の決定などには関わることが多いが、学校で行われる各種行事への参加については、言葉の壁もあり消極的であった。
- ・「日本を故郷と思っている」という声も聞かれ、日本に愛着を持ち、長く暮らしたいと考えている方も多い。しかしながら、在留資格変更の要件の厳しさや住宅購入や店舗経営時の制限などが多いことも語られた。

子どもがいる世帯(子:外国につながる若者)

- **年代:** 10~20代
- **居住地:** 山田町ほか
- **住戸形態:** マンション
- **日本語習熟度:** 日本の公立学校等に通い日本語指導を受けた等により、他グループに比して日本語力は高い。

世帯構成



来日の経緯

- 中学生の時に呼び寄せにより来日
- 母国の小学校を卒業し、中学校から来日

滞在中の経験など

教育・学校生活

- 学校生活のことは当初、国際教室の先生が教えてくれた。
- 中学生のころの国際教室は、どう教えたら良いか先生も分からなかったようだ。生徒も今より少なかった。
- 中学、高校では母国の名前だといじめられるから、先生から言われて日本名を使っていた。今はどちらか選べるようだ
- 学校では同じ学年に母国出身者が数名いた。
- 来日間もない頃は、言葉などの問題もあり、日本人の子とは友達になれなかった
- 中学生で来日したが、日本では夜間学校に通い年齢より下の学年になった
- 高校受験の面接は難しく、進学の際の面接は外国人にはハードルが高い
- 日本の学校生活はいろいろな行事があるから日本の学校のほうがいいが、最初は日本語が分からず参加したくなかった
- 夜間中学は様々な人がいて面白く、外国人同士でも日本語で話していた
- 高校では外国人のグループで仲良くして、日本人とはあまり関わっていない

就労

- 学習支援のスタッフが一番やりがいがある仕事
- 母国の友達と、ホテルの部屋の清掃バイトをしていた
- コンビニでバイトしていた時に、客から「なぜ〇〇人がここで働いているのか」と言われたこともあった

住居

- 母親の親戚や友達が中区に住んでいたので転入した
- 区内で転居した

防災

- 中学校で防災訓練をやったが、地域では参加していない

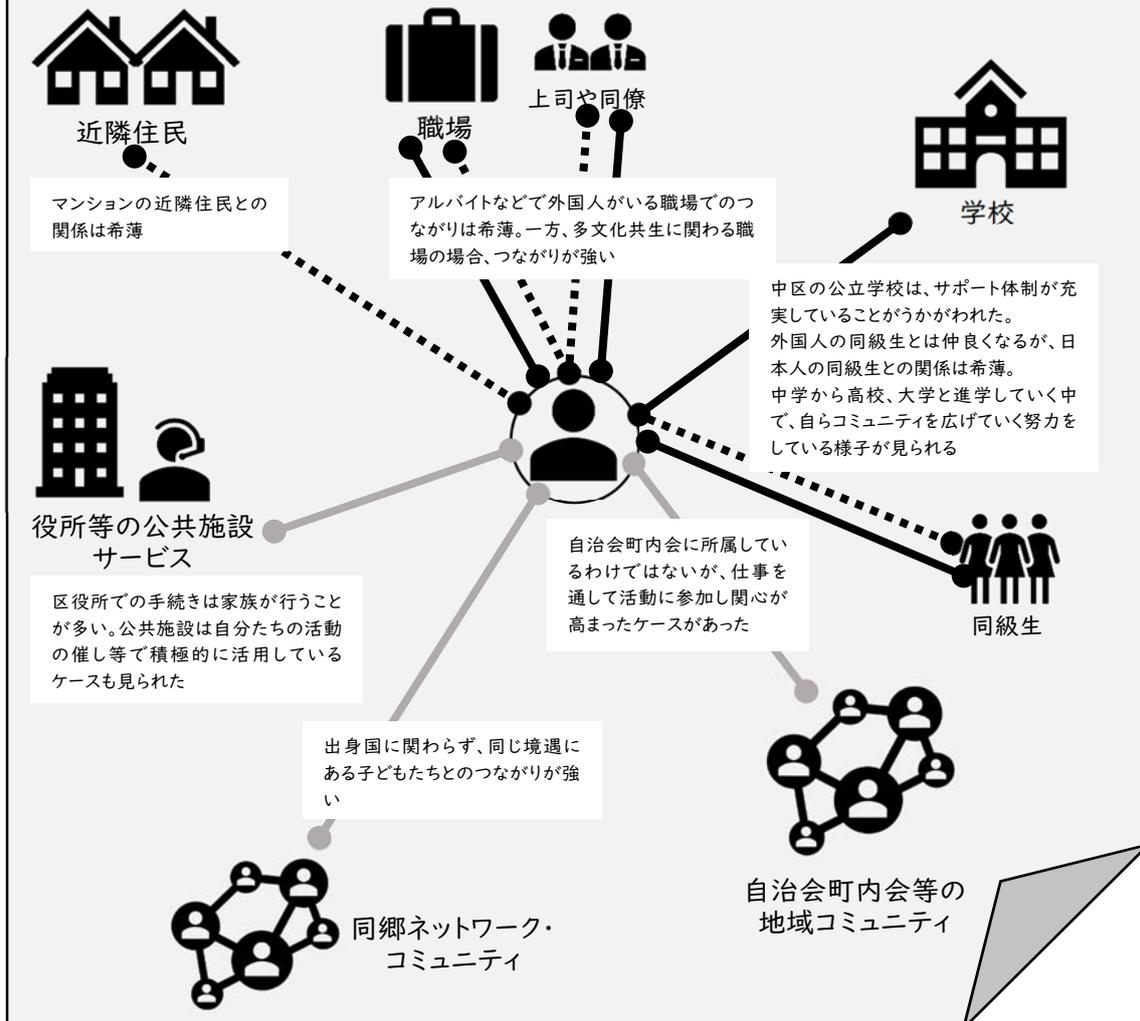
地域・社会参加

- 日常の活動圏
 - 国際交流ラウンジで自由に話をしたり、将来の話をしたりする
 - 高校生の時はアルバイトと学習支援教室に通っていた
 - 行けるところが少なく、遊び方が分からない
 - 来日間もない頃は、出かけるのが好きではなかった
 - 大学に進学しても商業施設などに寄らずに、大学、家バイト先の行き来のみだった
- 自治会町内会・管理組合・防災訓練・地域のボランティア活動等
 - 地区の行事、防災訓練などに参加している
 - レインボースペースで活動している

将来の構想

- 外国につながる子どもたちに、自らの経験を伝えていきたい
- 子どものころは店を開きたいと思っていたが、今はボランティアの経験と、大学での勉強を生かして日本で外国人のサポートをしたい
- 大学の勉強を主にして学費も自分で払いたい

エコマップ（つながりの分析） ③子どもがいる世帯（子：外国につながる若者）



【子どもがいる世帯（子：外国につながる若者）の日本での生活に係る意識】

- ・日本で育った若者たちは長く日本語に触れているため、日本語習熟度は他の類型に比べ高い。ただし、その過程では学校やアルバイト先で、言葉や文化の壁を感じ、経験してきたとの声が多かった。また、「日本語が話せないから、何もできず挑戦できなかった」という声もあった。
- ・なか国際交流ラウンジにおける学習支援教室に通っていた方は、これまでの経験をもとに、自身も外国につながる子どもたちの支援をしていきたいとの声もあった。

夫婦世帯

- **年代:** 30~70代
- **居住地:** 打越、山田町、南区
- **住戸形態:** マンション
- **日本語習熟度:** 日本語教室に通うなどしているが、職場などで使う日本語との差を感じている

世帯構成



夫または妻

来日の経緯

- 夫の仕事の都合で来日
- 日本人の夫と母国で結婚し、来日
- 母国で退職後、日本で仕事をしている娘が子どもを産んだので、孫の世話のために来日

滞在中の経験など

教育

- 孫が外国人学校の生徒。水泳、バレエ、ピアノなども習っていて、送り迎えをする
- 孫の幼稚園の先生とは英語でやり取りしていたが、話せない先生もいたので、孫が通訳していた
- 孫は日本語については問題ないようだが、孫には母国語でも話してほしい

就労

- ホテルの清掃のパートをしている
- クリーニングの仕事をしていて、仕事場の周囲は日本人

住居

- 夫の仕事場に近い場所を選んだ
- エレベータ内に曜日ごとの収集ゴミが書いてあった
- 同じマンションには日本人と外国人が住んでいる

防災

- 日本の地震は規模が大きくてびっくりした
- 日本人の夫が地震の際に避難する場所を教えてくれた

医療介護

- 日本の医療保険は良くできている
- 娘が日本語を話せるため、病院に付き添ってくれるから不安はない
- 英語が通じる病院ならひとりで行ける
- 病院に行く際は日本人の夫が通訳してくれる
- 日本にはデイサービスがあるのがいい

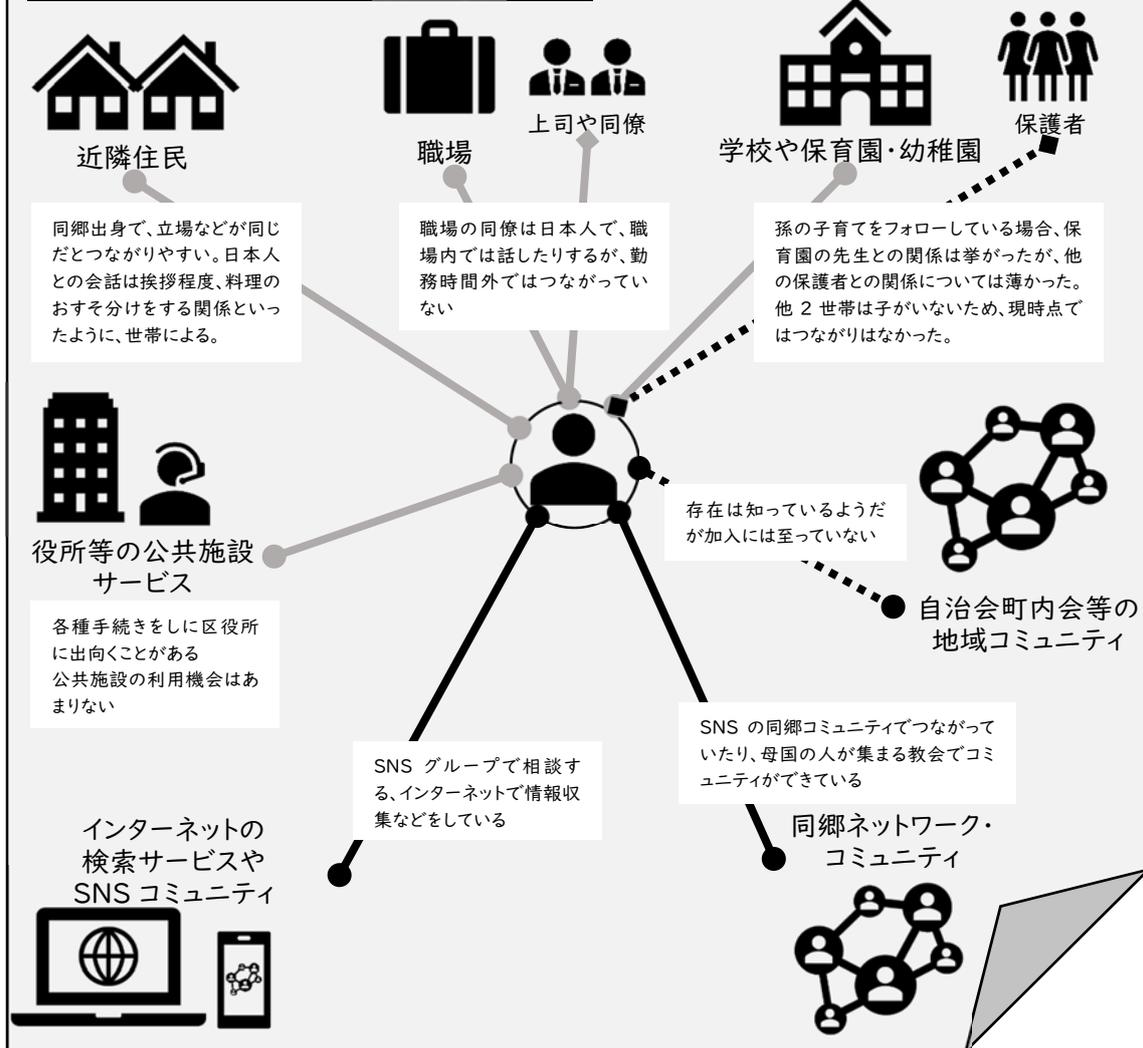
地域・社会参加

- 日常の活動圏
 - 近隣のスーパーに買い物に行く
 - 母国料理を出すレストランによく行く。
 - キリスト教徒なので、教会のミサに参加する
- 自治会町内会・管理組合・防災訓練・地域のボランティア活動等
 - 自治会町内会については、マンションに入居してから聞いたことがある
 - 自治会町内会のチラシを見たことがある
 - マンションの管理会社（管理組合）があるのは知っているが、町内会は加入しているのかどうか自分で把握していない
 - 地域の避難訓練はあるのを知っているが、参加したことはないし、あまり心配していない
 - 日本語ができないが今後、母国の料理を教えるなどといったことを通じて、社会参加していきたい
- 近所付き合い
 - 近所に住んでいる同じ境遇の夫婦と友達になり、今でも交流している
 - マンションの人と挨拶したり、隣人に母国の料理を持って行ったりしたことがある
 - 近隣の日本人とは挨拶と、どこから来たかなどを話す

将来の構想

- 母国で学校の先生をしていたので、日本では幼稚園の仕事をしたい。10年後くらいに母国に帰って日本に行きたい学生に日本語を教えたい。
- 引っ越す予定はなく、日本語を勉強して、母国にいたときと同じく商業をしたい。また、母国から日本に来た人の為に翻訳をして助けてあげたい。
- 孫の世話をするために来日したので、自分たち夫婦はいずれ帰国する

エコマップ（つながりの分析） ④夫婦世帯



【夫婦世帯の外国人の日本での生活に係る意識】

- ・家族のサポートのために来日したなど、本人にはとりわけ日本に強いこだわりがあるわけではないが、日本での生活の満足度は概して高かった。
- ・地域活動に参加していない世帯では、情報の入手先や相談相手は家族からが多く、自身でインターネットを活用して情報収集をしているとの声があった。
- ・職場では、日本人との交流もあるものの、言葉や文化の壁を感じており、普段話す人がいないことが寂しいと感じる声があった。また、日本語教室などで習う日常会話の日本語だけでなく、職場で使用する日本語も学びたいとの声もあり、日本語学習意欲が高い。
- ・地域日本語教室が交流の場となっており、教室を通じてできた友人と出かけるなど、生活の楽しみとなっているとの声もあった。

単身世帯

- **年代:** 20代
- **居住地:** 不老町、扇町、神奈川区
- **住戸形態:** アパート、マンション
- **日本語習熟度:** 日本語習熟度が高く、学習意欲も高い職場、利用する店舗などで日本語をよく使っている

世帯構成



来日の経緯

- 母国で高校卒業後、父親が日本で店を経営していたので、手伝うために来日
- 子どもの頃から日本の文化に興味があり、文献を読みたくて来日
- 母親が日本人で、自分のルーツを知りたくて来日

滞在中の経験など

教育

- 日本の学校では、教室で子どもたちに考えさせて、意見を出させていたのが母国の教育と異なり印象的だった。また、サポート体制があるからか、外国につながる子どもが学校になじめない印象は受けなかった
- 日本語学校で勉強し、その後進学コースに入ったが、家庭の事情で進学できなかった

就労

- 日本では目上の人に対する敬語や一緒に働く仲間への気遣いが重要だと思った
- 知り合いから仕事を紹介してもらうことが多い
- コンビニアルバイトは留学生が多かった
- 会社が変わると、再度在留資格の申請をしなければならない

住居

- 外国人だと断られてしまう不動産屋が一部ある。外国人専門の不動産屋の情報をもっと知らせて欲しい
- コロナの際、住宅確保給付金の申請は日本語だったため、面倒に思いやらない外国人がいた

防災

- 大家に防災対策について聞き、水や食料などを備蓄している
- 宿泊施設の仕事で防災や備蓄、訓練について学んだ
- 地震や台風は不安だが、緊急地震速報や天気予報があるから利用している

医療介護

- 日本は母国より保険適用範囲が広い
- (医療通訳をした際) 医療通訳は難しいため、メモを取りながらやり取りを行っている
- 友人に相談し、英語でも対応できるクリニックを見つけた

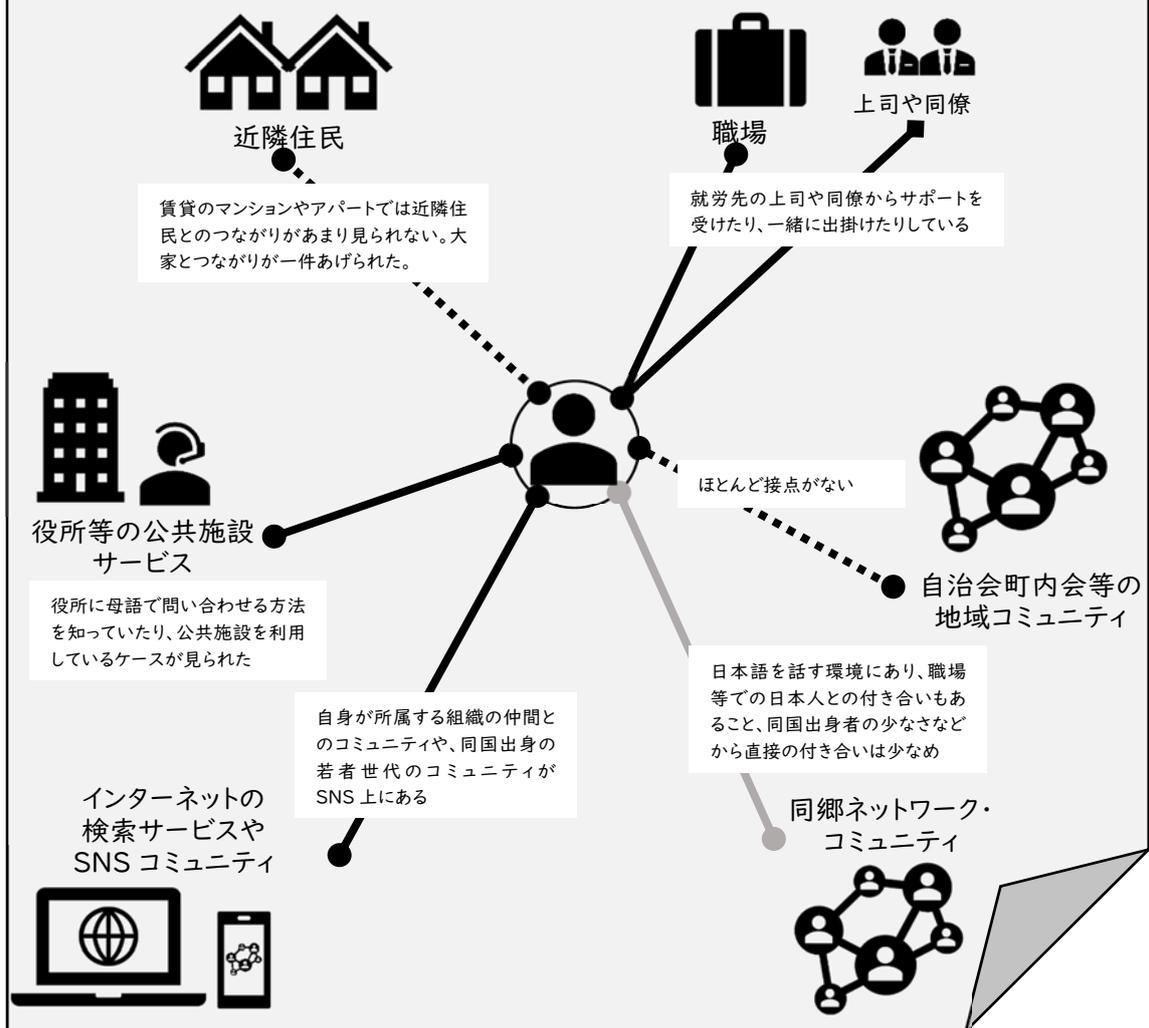
地域・社会参加

- 日常の活動圏
 - 近隣の商店街、スーパーなどに頻繁に行き、公共図書館などに日本語のテキストを見に行く
- 自治会町内会・管理組合・防災訓練・地域のボランティア活動等
 - 勤務先の小学校の避難訓練に参加した
 - 通訳やその他生活サポートの活動をしている
 - 自治会町内会の勧誘がきたことはないが、ボランティアでぜひやってみたい
 - 自治会町内会は誘われたら入るが、そもそも情報がない

将来の構想

- 今後も中区に住み続けたい
- 今後は特に考えていないが、今は横浜に住みたいと思っている
- コロナで母国の経済が悪化して、失業が増えているので、日本でいい仕事を見つけたい

エコマップ（つながりの分析） ⑤単身世帯



【単身世帯の外国人の日本での生活に係る意識】

- ・日本人がいる職場で働くなど、他の分類に比べ自ら日本人と関わる方がほとんどであった。
- ・多くの方が来日前後から日本語を学び、一定程度修得出来ており、言葉の壁を感じた方は少なかった。しかしながら、敬語等を使われると理解が難しくなるとの声もあった。
- ・在住外国人をサポートする活動をするなど外国人住民と地域の架け橋となっている方もいた。その場合、日本人、地域だけでなく、外国人側の課題も客観的に把握していた。日本人住民、外国人住民の双方の文化、制度利用、情報アクセスの壁等を把握する彼らがキーパーソンとなり、地域でのつながりが広がっていくことが期待される。
- ・日本語をもっと勉強して使っていきたい、日本人ともっと交流したいという声もあった。
- ・将来的にも全員日本に住み続けたい意向があり、日本での暮らしの満足度の高さが感じられた。